|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| １  目標・内容  の取扱い | 国語科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。  ○　日常生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うことについて  ○　人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことについて  ○　言葉がもつよさを認識し、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図ることについて |
| ２  人 権 の  取 扱 い | 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。  ○　人権への配慮について  ○　国際理解や国際協調について  ○　ユニバーサルデザインに関する配慮について |
| ３  内容の程度 | 児童の発達段階を考慮した内容になっているか。  ○　題材に対する興味・関心、文章の記述や分量について  ○　写真、挿絵、図、表などの資料について  ○ 漢字や入門期の文字を含む語彙を段階的に獲得し、活用することについて |
| ４  組織・配列 | 各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。  ○　単元配列について  ○　単元構成について  ○　写真、挿絵、図、表などの資料について |
| ５  創意工夫 | 言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。  ○　活動場面の設定や多様な学習活動の組み合わせについて  ○　情報機器や学校図書館を活用することについて |
| ６  補充的な  学　習・  発展的な  学　習． | 学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。  ○　資料やコラムなど  ○　読書習慣の形成および進んで学習や生活に生かすことについて |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| １  目標・内容  の取扱い | 国語科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。  ○　日常生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うことについて  ○　人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことについて  ○　言葉がもつよさを認識し、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図ることについて |

|  |  |
| --- | --- |
| 発行者 | 事　　項 |
| 東書 | ○　日常生活に必要な国語の知識及び技能について、各教材を通じて適切な内容が取り扱われている。特に、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化について、「ことばあつめ」「言葉の広場」「伝えたい言の葉」などにおいて取り扱われている。  ○　「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、課題解決的な学習に取り組むことで、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっている。２～６年の巻頭では、「気持ちよく対話を続けよう」など、対話的な学びを通して、言葉の力を養う内容が取り扱われている。  ○　単元末や学年末に定期的に学習を振り返り、成長を確かめ、さらなる学習への意欲や主体性が高まる内容が取りあげられている。また、全単元において、学習を通じて育成する資質・能力として「言葉の力」を単元冒頭と単元末に示しており、身につけた力を他教科や生活に生かせるよう取り扱われている。 |
| 学図 | ○　日常生活に必要な国語の知識及び技能について、各教材を通じて適切に取り扱われている。特に、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化について、巻頭の「見つける・見つめる」や巻末の「言葉の部屋」「季節のたより」などにおいて取り扱われている。  ○　「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、課題解決的な学習に取り組むことで、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっている。２～６年の巻頭「ことばでつながる」などにおいて、他者と主体的に関わり、伝え合う力を育成する内容が取り扱われている。  ○　「学習のてびき」には、見開きで学習の全体像を示すことで、学習への見通しを持ち、意欲や主体性が高まる内容が取りあげられている。また、「学習のてびき」の「国語のカギ」は、身につけた力を他教科や生活に生かせる内容が取り扱われている。 |
| 教出 | ○　日常生活に必要な国語の知識及び技能について、各教材を通じて適切に取り扱われている。特に、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化について、「言葉を学ぼう」「言葉をふやそう」「文化」や巻末の「言葉の木」などにおいて取り扱われている。  ○　「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、課題解決的な学習に取り組むことで、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっている。２～６年の巻頭、「言葉で伝え合おう」などにおいて、日常のさまざまな場面で生きて働く言葉の力を養う内容が取り扱われている。  ○　各教材において、学びのステップを示し、学習課題と学習過程を可視化することで、学習者の主体性や意欲が高まる内容となっている。また、全単元に「ここが大事」が設けられ、単元で身につけた力を他教科や生活に生かせるよう取り扱われている。 |
| 光村 | ○　日常生活に必要な国語の知識及び技能について、各教材を通じて適切に取り扱われている。特に、言葉の特徴や使い方、情報、我が国の言語文化について、「言葉の宝箱」や「季節の言葉」において取り扱われている。  ○　「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、課題解決的な学習に取り組むことで、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっている。２～６年では「対話の練習」が設定され、他者と主体的に関わり、日常生活に生きる対話の力を育む内容が取り扱われている。  ○　つけたい力と言語活動が単元冒頭に取りあげられ、児童の意欲や主体性が高まる内容が取りあげられている。また、「たいせつ」や「いかそう」では、単元で身につけた力を、他教科や生活に生かせる内容が取り扱われている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| ２  人 権 の  取 扱 い | 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。  ○　人権への配慮について  ○　国際理解や国際協調について  ○　ユニバーサルデザインに関する配慮について |

|  |  |
| --- | --- |
| 発行者 | 事　　項 |
| 東書 | ○　文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、戦争や平和、自然環境問題、防災・安全などを題材にした教材が取りあげられている。  ○　国際理解や国際協調について、適切に取り扱われている。例えば、３年「外国のことをしょうかいしよう」４年「くらしの中の和と洋」などの教材で、外国の文化や自然について取りあげられている。  ○　すべての児童にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などに配慮されている。 |
| 学図 | ○　文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、戦争や平和、自然環境問題、防災・安全などを題材にした教材が取りあげられている。  ○　国際理解や国際協調について、適切に取り扱われている。例えば、２年「あいさつのみぶりとことば」４年「手で食べる、はしで食べる」などの教材で、外国の文化や自然について取りあげられている。  ○　すべての児童にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などに配慮されている。 |
| 教出 | ○　文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、戦争や平和、自然環境問題、防災・安全などを題材にした教材が取りあげられている。  ○　国際理解や国際協調について、適切に取り扱われている。例えば、３年「絵文字の特長をとらえよう」６年「子どもたちを救いたい」などの教材で、外国の文化や自然について取りあげられている。  ○　すべての児童にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などに配慮されている。 |
| 光村 | ○　文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、戦争や平和、自然環境問題、防災・安全などを題材にした教材が取りあげられている。  ○　国際理解や国際協調について、適切に取り扱われている。例えば、２年「スーホの白い馬」３年「三年とうげ」などの教材で、外国の文化や自然について取りあげられている。  ○　すべての児童にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などに配慮されている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| ３  内容の程度 | 児童の発達段階を考慮した内容になっているか。  ○　題材に対する興味・関心、文章の記述や分量について  ○　写真、挿絵、図、表などの資料について  ○ 漢字や入門期の文字を含む語彙を段階的に獲得し、活用することについて |

|  |  |
| --- | --- |
| 発行者 | 事　　項 |
| 東書 | ○　児童にとって、興味・関心のある題材で、適切な記述や分量となっている。例えば、低学年では自分の意見を交流すること、高学年では、インターネットの投稿について考えたり、プレゼンテーションを行ったりすることなど、発達段階を考慮した内容となっている。  ○　写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階に応じたものになっている。  ○　各学年の「言葉の練習」「漢字の練習」などで、語彙や漢字、言葉の習得に向けた内容が、発達段階に応じて取り扱われている。  入門期は、想像をふくらませたり、伝え合ったりする活動などにより、少しずつ言葉に触れられるよう取り扱われている。 |
| 学図 | ○　児童にとって、興味・関心のある題材で、適切な記述や分量となっている。例えば、低学年では身近な動植物について友だちに伝えたり、みんなで読んだ本の内容についてクイズを出し合ったりすること、高学年では、自分の学校をよりよくする提案や日本の魅力についてスピーチしたり、プレゼンテーションを行ったりすることなど、発達段階に考慮されている。  ○　写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階に応じたものになっている。  ○ 各学年の「漢字の広場」「言葉の部屋」などで、語彙や漢字、言葉の習得に向けた内容が、発達段階に応じて取り扱われている。  入門期は、想像をふくらませたり、伝え合ったりする活動などにより、少しずつ言葉に触れられるよう取り扱われている。 |
| 教出 | ○　児童にとって、興味・関心のある題材で、適切な記述や分量となっている。例えば、低学年ではイラストを見て気づきを伝え合ったり、ゲームに取り組んだりすること、高学年では、ＡＩや地域の防災について調べたり、考えを伝え合ったりすることなど、発達段階に配慮されている。  ○　写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階に応じたものになっている。  ○　各学年の「漢字の広場」「言葉のまとめ」などで、語彙や漢字、言葉の習得に向けた内容が、発達段階に応じて取り扱われている。  入門期は、想像をふくらませたり、伝え合ったりする活動などにより、少しずつ言葉に触れられるよう取り扱われている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 光村 | ○　児童にとって、興味・関心のある題材で、適切な記述や分量となっている。例えば、低学年ではクイズを出し合ったり相談し合う活動を取り入れたりすること、高学年では、よりよい学校生活に向けて話し合ったり小学校生活を終えるにあたってのスピーチを行ったりすることなど、発達段階に考慮されている。  ○　写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階に応じたものになっている。  ○　各学年の「漢字の広場」「言葉の宝箱」などで、語彙や漢字、言葉の習得に向けた内容が、発達段階に応じて取り扱われている。  入門期は、想像をふくらませたり、伝え合ったりする活動などにより、少しずつ言葉に触れるよう取り扱われている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| ４  組織・配列 | 各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。  ○　単元配列について  ○　単元構成について  ○　写真、挿絵、図、表などの資料について |

|  |  |
| --- | --- |
| 発行者 | 事　　項 |
| 東書 | ○　指導すべき内容が教科横断的な視点を踏まえ配列されている。例えば、２年「「ありがとう」をつたえよう」では、日常生活や生活科の学習で活用できる手紙を書く活動が取り扱われている。また、５年「環境問題について報告しよう」では、社会科の時間等と関連づけられる。  ○　児童が見通しを持って学習が進められるよう、巻頭に国語の学習の進め方が示されている。「つかむ」で見通しをもち、見通しに沿って自分の考えや思いをまとめ、「ふり返る」で自分の学習を振り返られるよう構成されている。また、「生かそう」で、学んだことを他教科の学習や生活でも活用できるよう取り扱われている。  ○　資料について、効果的に取り扱われている。例えば、３年「『ほけんだより』を読みくらべよう」では、資料やアドバイスをどのように取りあげたらよいか考えられる。また、６年「世界に目を向けて意見文を書こう」では、資料がまとめて提示され、必要な資料が読み取りやすいよう工夫されている。 |
| 学図 | ○　指導すべき内容が教科横断的な視点を踏まえ配列されている。例えば、２年「やってごらんおもしろいよ」では、生活科の学校探検やおもちゃ遊びの学習に関連づけられる内容が取り扱われている。また、６年「日本の魅力再発見」では、社会科や総合的な学習の時間等と関連づけられる。  ○　児童が見通しを持って学習を進められるよう、巻頭に国語の学習の進め方が示されている。「つかむ」で見通しを持ち、「見方や考え方を学ぶ」で考えを深め、「まとめる・ふり返る」でまとめ、「広げる」で生活や社会に目を向け、学習したことを生かしていけるよう取り扱われている。  ○　資料について、効果的に取り扱われている。例えば、２年の「とべとべ回れ」では、用意するものなど一つ一つの挿絵が示されている。また、６年「日本の魅力、再発見」では、複数の資料を用いて説得力のある文章を作ることができるよう工夫されている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 教出 | ○　指導すべき内容が教科横断的な視点を踏まえ配列されている。例えば、２年「「かんさつ発見カード」を書こう」では、生活科の学習で活用できるくわしく観察記録を書く活動が取り扱われている。また、５年「世界遺産 白神山地からの提言」では、社会科や総合的な学習の時間などと関連づけられる。  ○　児童が見通しを持って学習が進められるよう、「読む」単元では、「たしかめよう」「考えよう」「深めよう」「広げよう」の４ステップを示し、学習課題と学習過程を可視化し、学習者が見通しを持つとともに生活に生かせるよう取り扱われている。「読む」単元以外では、単元の内容に応じた進め方を示している。  ○　資料について、効果的に取り扱われている。例えば、３年「川をさかのぼる知恵」では、土地の断面図などが提示されていることで、本文の内容を視覚的につかむことができる。また、５年「まんがの方法」では、さまざまな種類のコマやふきだし、背景を提示するなど、工夫されている。 |
| 光村 | ○　指導すべき内容が教科横断的な視点を踏まえ配列されている。例えば、２年「かんさつ名人になろう」では、生活科の学習で活用できる、くわしく観察記録を書く活動が取り扱われている。また、４年「世界にほこる和紙」では、総合的な学習の時間や社会科などと関連づけられる。  ○　児童が見通しを持って学習が進められるよう、巻頭に「国語の学びを見わたそう」が示されている。「初めに」で見通しをもち、「読む」「書く」「話す・聞く」で自分の考えをまとめ、「ふりかえる」で学習を振り返り、「学習や生活にいかす」で、学んだことを他教科の学習や生活に生かせるよう取り扱われている。「読む」単元では学習の過程を「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」と示している。  ○　資料について、効果的に取り扱われている。例えば、２年「馬のおもちゃの作り方」では、作り方の文章に対して写真が一枚一枚提示されていることで、本文の内容を視覚的につかむことができる。また、６年「時計の時間と心の時間」では、文章の内容を補う表や図を提示するなど工夫されている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| ５  創意工夫 | 言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。  ○　活動場面の設定や多様な学習活動の組み合わせについて  ○　情報機器や学校図書館を活用することについて |

|  |  |
| --- | --- |
| 発行者 | 事　　項 |
| 東書 | 言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。  ○　多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。例えば、６年「町の未来をえがこう」では、自分たちの町の未来についてプレゼンテーションを行うゴールが設定され、その達成に向けて、「町の幸福論」について読む活動、街づくりについて調べる活動、集めた情報をもとに提案内容をグループで検討する活動が取り扱われている。  ○　情報機器や学校図書館を活用することについて適切に取りあげられている。例えば、巻頭に「対話」「情報の扱い方」「図書館利用」についての単元・小単元を位置づけている。また、６年「町の未来をえがこう」では、自分の考えをプレゼンテーションする中で、タブレット端末や、パソコンなどの情報機器を活用した活動ができるよう工夫されている。 |
| 学図 | 言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。  ○　多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。例えば、５年「みちくさ」では、人物の性格や心情について読み取り、工夫して音読し、自分の考えと友だちの考えを書いて自分だけのノートを作る学習へとつながる活動が取り扱われている。  ○　情報機器や学校図書館を活用することについて適切に取りあげられている。例えば、図書館利用に関する教材が設定されている。また、６年「電子メールで質問しよう」では、調べ学習などに活用できるよう、依頼のメールを送るなど、情報機器を活用した活動ができるよう工夫されている。 |
| 教出 | 言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。  ○　多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。例えば、５年「表現の効果を考えながら、登場人物の関わりをとらえて読もう」では、宮沢賢治の「雪わたり」について学んだあと、宮沢賢治の他の作品や関連する内容について読書新聞を作ったり、図書推薦会で、調べた本について発表し合ったりする活動が取り扱われている。  ○　情報機器や学校図書館を活用することについて適切に取りあげられている。例えば、発達段階に応じて調べ学習を扱った教材が設定されている。また、６年「自分の考えを発信しよう」では、インターネットを利用した情報収集や発信について取りあげられ、情報機器を活用した活動ができるよう工夫されている。 |
| 光村 | 言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。  ○　多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。例えば、６年「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」では、日本文化をパンフレットにまとめて発信する、というゴールが設定され、その達成に向けて、「鳥獣戯画」について読む活動、日本文化について調べる活動、集めた情報をもとに提案内容をグループで検討する活動が取り扱われている。  ○　情報機器や学校図書館を活用することについて適切に取りあげられている。例えば、発達段階に応じて調べ学習を扱った教材が設定されている。また、５年付録「インターネットを使って調べよう」に、インターネットの検索機能の使い方が記載され、指導に生かすことができるなど、情報機器を活用した活動ができるよう工夫されている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 観　　点 |
| ６  補充的な  学　習・  発展的な  学　習． | 学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。  ○　資料やコラムなど  ○　読書習慣の形成および進んで学習や生活に生かすことについて |

|  |  |
| --- | --- |
| 発行者 | 事　　項 |
| 東書 | ○　巻末に、「学習で使う言葉」「言葉の広場」という語彙や表現のまとめ、これまでに学習した「言葉の力」の領域ごとのまとめ、漢字やローマ字のまとめ等が設けられ、いつでも確認し、振り返って学習できるよう配慮されている。  なお、Ｄマークのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。  ○　各学年「読むこと」教材のてびき「こんな本もいっしょに」では、同一著者の別作品やテーマの関連する作品が紹介されている。また、著名人が本について語る「本は友達」や、各学年に応じた本と、読書記録等の書き方を紹介する「○年生の本だな」も設けられている。さらに、各学年「読むこと」に、読書体験を交流し合う単元が設けられるなど、読書習慣の形成および進んで学習や生活に生かすことに配慮されている。 |
| 学図 | ○　各学年末の資料編「広げよう確かめよう」では、その学年で学習した言葉をまとめた「授業で使う言葉」やその学年で学習する大切なことがらをまとめた「国語のカギ」「漢字のまとめ」や「ローマ字の表」などが設けられ、いつでも確認し、振り返って学習できるよう配慮されている。  なお、ＱＲコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。  ○　各学年「読むこと」教材のてびき「この本読みたいな」や「読書の部屋」で、学習に関連する図書が紹介されている。また、各学年上巻には、作品を読んで対話的に交流し合う「読書に親しもう」の単元も設けられている。さらに、各学年下巻には、「読書を広げよう」の単元が設けられるなど、読書習慣の形成および進んで学習や生活に生かすことに配慮されている。 |
| 教出 | ○　巻末に、学習の重点や用語を整理した「「ここが大事」のまとめ」「学ぶときに使う言葉」、語彙や表現をまとめた「言葉の木」「言葉のまとめ」が設けられ、いつでも確認し、振り返って学習できるよう配慮されている。  なお、「まなびリンク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。  ○　各学年「読むこと」教材のてびき「本を読もう」では、同一著者の別作品やテーマの関連する作品が紹介されている。また、各学年の上下巻末付録の「○年生で読みたい本」では、テーマごとの図書が紹介されている。さらに、各学年で、読書体験を「話すこと・聞くこと」「書くこと」と関連させて学ぶ「読書」の単元が設けられるなど、読書習慣の形成および進んで学習や生活に生かすことに配慮されている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 光村 | ○　各学年末の「学習を広げよう」では、話す・聞く、書く、読むそれぞれの活動で参照できる資料、場面に応じた表現の型のまとめ、学習した語彙をまとめた「言葉の宝箱」などが設けられ、いつでも確認し、振り返って学習できるよう配慮されている。  なお、ＱＲコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。  ○　各学年「読むこと」教材の「学習」の「この本、読もう」では、学習に関連する図書が解説文つきで紹介されている。また、各学年の巻末の「本の世界を広げよう」では、テーマごとの図書が紹介されている。さらに、各学年「本は友達」では、読書の観点や読書体験の交流の仕方、その単元で活用できる作品が掲載されるなど、読書習慣の形成および進んで学習や生活に生かすことに配慮されている。 |